

令和7年度 日南市立桜ヶ丘小学校 学校運営協議会評価書

■ 本年度の重点課題 … 1 学力の向上 2 心の教育の充実 3 健康・安全の充実 4 家庭・地域との連携 5 働き方改革の推進

評価基準 「4」 「たいへんよく取り組んでいる」(90点以上) 「3」 「よく取り組んでいる方である」(70～89点)
 「2」 「少し改善(努力)することがある」(50点～69点) 「1」 「まだ改善(努力)をしなければならない」(50点未満)

項目	評価指標	学校の自己評価コメント	評価(平均値)		学校関係者評価コメント
			自己評価	委員評価	
1 学力の向上	① ICT機器を有効に活用し、授業のユニバーサルデザイン化を図ることによって分かりやすい授業となっている。	「授業のユニバーサルデザイン化」を校内研究(主題研究)の中心に据え、ICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業づくりに継続して取り組んできた。生成AIを活用し、児童の実態に応じた指導の工夫を行うことで、個々の学習内容の理解を一層深めることができた。	職員14名	委員4名	○ 授業では、本日の目標のような着地点が黒板へ明示された上で進められており、児童全員が分かりやすく取り組めるような工夫がなされている。また、タブレットが授業のスタンダードとなっており、写真などを活用しながら効率よく行われている。また、授業中の状況においても保護者、児童、教員とも満足度が高くなっており、少人数という利点を生かしながら、一人一人を意識した授業や積極的に発言する機会もあり、一定の評価ができるものである。一方、読書活動については、特に児童自身が改善の余地ありとして自覚しているようであり、電子書籍も含めて、本に親しむ機会の創出が必要である。 ○ 読書活動が高学年になると少なくなっているようなので、読書をする習慣を続けてほしい。 ○ 読み聞かせ等の交流を通じ、子どもたちが自信をもって自己表現できる環境づくりを支援・強化していきます。 ○ タブレットの活用が当たり前となった今のスタイルで、授業の進行はスムーズに行われていると思います。子どもたちも画像、動画を使うことで言葉では伝えにくい内容もより鮮明に記憶に残っていくと思われれます。しかし、文字を書くという作業が減ってきているのは、という心配もあります。また、本を読むことが少なくなると、読解力が劣ってくるのも心配です。あと授業中の子供たちの集中力が散漫な感じがしました。
	② 授業中の子どもたちの発表の仕方や話の聞き方等が的確に指導されており態度も良い。	「焦点化・視覚化・共有化」を意識した授業づくりを通して、「協働的な学び」の充実を図ってきた。タブレットを活用し、互いの考えを分かりやすく発表・共有することで、児童同士の学び合いにつなげることができた。	3.1	3.0	
	③ 子どもたちの読書活動を推進するための手立てがなされている。	地域ボランティア、図書司書、放送委員及び図書委員の児童による読み聞かせを実施し、読書への興味・関心の向上を図った。			
2 心の教育の充実	④ 子どもたちへの挨拶に関する指導は的確で、子ども達の挨拶も良い。	全校集会等で「挨拶をすることのよさ」について繰り返し指導し、児童が主体的に行動できるよう働きかけてきた。今後も継続して挨拶指導に取り組んでいく。			○ あいさつのアンケート評価結果では、保護者と児童、教職員で乖離があるため、あいさつをする場面ですっかりできてきているか、今後も継続した働きかけが必要である。また、学校の雰囲気についても、特に、児童は高い評価であることから、各学年の先生方の対応は評価できるものである。道徳教育等については、児童自身の評価が高く、保護者についても高学年の評価が高くなっていることは学校のこれまでの取組の成果である。引き続き、家庭とも連携しながら取り組んでいただきたい。 ○ あいさつもよく、少人数のために児童も仲が良く助け合っているように思える。 ○ 子どもたちが安心して学校生活を送れていると感じます。 ○ あいさつに関しては、全体的には良く取り組まれていると思います。校外においては、こちらから声をかけるようにしています。登下校の雰囲気もとても明るく見えます。今いじめ問題では、すぐにSNSで拡散される時代です。これがいじめだと気付かずに行っている場合もあると思います。小学生の内からしっかり教育していただきたいと思ひます。
	⑤ お子さんの学級の雰囲気は明るく、楽しそうに過ごしている。	毎月の「心のアンケート」や毎学期の教育相談を通して、いじめの早期発見や児童の悩みの把握・解決に努めた。	3.2	3.3	
	⑥ 命を守るための指導(道徳教育等)が適切になされている。	特別の教科「道徳」及び「日南市レインボープラン」に基づき、性教育を含めた命の教育を計画的に実施した。「保護者引き渡し訓練」を含め、各種避難訓練を計画的に実施した。			
3 健康・安全の充実	⑦ 日常的な健康観察と生活指導を通して、基本的な生活習慣の確立がなされている。	全校集会や毎月の重点目標、委員会活動など、日常の様々な場面を通して健康や生活習慣について指導し、児童が継続して意識できるようにした。			○ 全国的に以前より体力が落ちている児童が多いという記事を見掛けるが、外遊びなど運動場で遊んでいる姿を良く見るため、外遊びの機会提供など一定の評価ができるものである。また、生活面や食育については、家庭教育学級においても栄養面に関する講義が設定されるなどよく啓発もなされている。 ○ 運動会の時もみんな全力を出して頑張っている。 ○ 目標に向かって、教職員と子どもたちが、一丸となって取り組んでいると感じます。 ○ 人間生き残るためには絶対に体力が必要です。休憩時間など、外でたくさん遊んでほしいです。食育に関しては、学校では栄養管理された給食を食べることができず、家庭ではどうでしょうか?世の中美味しくて味の濃い食べ物がたくさんあります。子どもも好き嫌いを言うし、つい好きな食べ物だけとなり、偏った食生活にならないか心配です。
	⑧ 体力づくりにチャレンジする場や時間を設定し、日常的に体力向上に取り組む指導がなされている。	学習カードの活用や教材・教具の工夫等により、達成感を味わえる体育の授業を展開した。体育を「楽しい」と感じる児童が増え、持久走やなわとびにも意欲的に取り組む姿が多く見られた。	3.2	3.3	
	⑨ 保健や食育に関して、保護者への啓発がなされている。	「保健だより」「食育だより」の発行や学校保健委員会の開催を通して、家庭と連携した生活指導の充実を図った。			
4 家庭・地域との連携	⑩ 家庭や地域と連携した取組を発信している。	地域コーディネーターと連携し、多くの地域の方々の協力を得ることで、学校の教育活動をより充実させることができた。			○ 学校のお便りや学校HPで活動の様子が見られるため良く発信されていると感じる。児童数減少や地域住民の高齢化により関係性が希薄になりつつあるが、チャンスがあれば積極的に地域と交流していただき、学校が地域コミュニティの核となることを期待したい。 ○ 学年によって保護者アンケートの回答率に差があるので、保護者の協力が必要である。 ○ 学校と家庭、地域が一体となって子どもたちを育てる土壌ができていくと感じます。維持できるように、地域行事等を通じて交流を深めていきたいと思ひます。 ○ 子どもたちが、地域の人たちと楽しく接しているというのは大いに評価できると思ひます。おうちの人ももしっかり話して伝えていくことで安心しました。
	⑪ 学級や学校は、必要な情報を家庭に発信している。	学校ホームページの更新や「学校だより」の発行、緊急時における「桜Eメール」での情報発信に努めた。	3.3	2.8	
	⑫ 昨年度の学校評価を活かした学校運営がなされている。	学校運営協議会による評価を全教職員で共有し、課題を明確にした上で、学校運営の改善に取り組んだ。			
5 働き方改革の推進	⑬ 「日南市小中学校における教師の勤務時間の上限に関する方針」の徹底を図っている。	役割達成度評価に基づく目標設定を行い、中間ミーティング、フィードバック面談を通して意識啓発を図った。職員間で積極的に声を掛け合い、帰庁時間を意識した業務改善に努めた。	3.6	3.5	○ 電子化を進めるなど、できることから少しずつ進んでいると感じる。電子化するには使用方法等それなりの研修も必要であると思ひますが、電子化は働き方改革にもつながるものであるため、他校の好事例等を参考にしながら、引き続きの負担軽減を図っていただきたい。 ○ 先生も自分の家庭を大事にして活動してください。 ○ 「学校でしかできない事」と「地域で担える事」の整理に協力し、働き方改革を後押ししたいと思います。 ○ 教職という職業は、対人間相手です。まだ未熟な小学生、いろんな考えの保護者、地域の方、職務は激務だと思ひます。一昔前とは随分働き方も変わってきていますが、十分な休養を取ってリフレッシュしていただき、学校ではたくさん触れ合ってもらいたいと思ひます。
	⑭ 業務負担の軽減を図ることで、授業改善及び児童と向き合う時間の確保に努めている。	ICT支援員やSSSの活用により、教職員の業務負担軽減を進めた。生成AIを効果的に活用することで、授業準備時間短縮を図っている。			

【全体所見・令和8年度の方策】

1 学力の向上
○ 「授業のユニバーサルデザイン化」を意識し、授業改善に取り組んできた。全学級での相互参観授業を通して、様々な指導の手立てを共有できたことは有意義であった。今後も「どの子も分かる授業」を念頭に「ひなたの学び」の充実を図っていききたい。

2 心の教育の充実
○ 毎朝の出席状況確認を丁寧に行い、毎月の生徒指導・校内支援委員会を充実させることで、問題の早期発見と情報の共有、迅速な対応を行うことができた。今後も、保護者、SC、巡回相談員、地域コーディネーター等と連携し、児童が安心して学校生活を送れる環境づくりに努める。

3 健康・安全の充実
○ SNSトラブルや自然災害が頻発する昨今、情報モラル指導や避難訓練の充実を図り、事故防止や感染症、災害への対応について、日常的な指導の充実と体制の継続的な見直しを行っていく必要がある。

4 家庭・地域との連携
○ 学校だよりやHPでの情報発信に努めてきた。今後も学校運営協議会、PTA、地区協議会、地域コーディネーター等と連携し、周囲への感謝の気持ちと郷土愛を育む教育活動を推進していききたい。

5 働き方改革の推進
○ 多くの教職員がフレックスタイムや有給休暇を有効に活用することができている。これは、教職員間のコミュニケーションが円滑で、協力体制が整っている成果と考えられる。今後も風通しの良い職場づくりに努め、報告・連絡・相談の徹底を図っていく。

校長所見